

2018年4月4日

**会長談話****「今こそ拉致問題解決の時 政府の強力な働きかけに期待する」**U A ゼンセン  
会長 松浦 昭彦

韓国が鄭義溶（チョン・ウィヨン）国家安保室長らを特使団とし3月5日に訪朝、金正恩（キム・ジョンウン）朝鮮労働党委員長と平壤で会談し、南北首脳会談を開催することで合意した。その後、韓国統一省は3月29日、韓国の文在寅（ムン・ジェイン）大統領と北朝鮮の金正恩委員長の首脳会談を4月27日に開催することで南北が合意したと発表した。

また、5月までには米朝首脳会談が開催される見通しとなり、報道では、安倍晋三首相は、4月17日から20日に訪米し、トランプ大統領と首脳会議を行う予定とされている。会談では、対北朝鮮政策における日米間の協力体制を再確認するとされ、菅義偉官房長官は拉致問題についても米朝首脳会談に取り上げるよう要請すると発言している。

U A ゼンセンは、拉致問題解決は国家の最優先課題であるとし、一刻も早い拉致被害者救出を求めて、本日、加藤勝信内閣府特命担当大臣（拉致問題）に過去最多となる462,999筆の署名提出を行った。この間の署名活動で寄せられた様々な声は、現下の状況が、日本政府の対応いかんで拉致問題解決に向けた大きなチャンスになるとの国民の強い期待の表れであると認識している。

私たちは引き続き、国民全体に対して拉致問題の一刻も早い解決の必要性を訴えるために、特定失踪者問題調査会など関係団体とも連携し、来る6月5日（火）から9日（土）にかけて、仙台・新潟・埼玉・名古屋・大阪・広島・徳島・福岡の8か所の主要駅頭あるいは繁華街などで大規模な署名活動を展開する予定である。

『今こそ拉致問題解決の時』である。私たちは、本日の462,999筆の署名提出にあたり、日本政府に対し、すべての拉致問題および特定失踪者問題の解決にむけた独自の取り組み、また米韓との連携を通じた強い働きかけと具体的な取り組みを訴えるものである。

以上